

十一月三十日

討 論

大阪維新の会

議案第八十三号の人事院勧告による職員給与の改定に、苦渋の決断をもって賛成とする。

令和二年度の勧告では、月例給は民間給与との較差が極めて小さく、改定困難とのことで据え置かれ、特別給のみ〇・〇五カ月分の引き下げとなった。

コロナ禍による本市への影響は甚大で、厳しい状況である。現在の地域経済の実態を勘案すれば、賞与も出ず、給与も右肩下がりの民間企業が多々ある中、公務員の給与は民間と均衡がとれていると言えるのか。また民間給与実態調査の対象は比較的大きな企業で、中小企業の多い本市の実態に本當に即しているのか。コロナ禍の中、市民の安全、安心確保のための努力には心から敬意を表する。だが特別給のわずかな引き下げのみの改定は、市民感情から納得のいくものでない。全国的にも勧告に準拠して改定されてきた経緯等から、苦渋の決断で賛成するが、今後は市民の納得のいくものにすべきである。

十二月二十一日

討 論

日本共産党

提案された議案中、四件に反対。モノレールのため府土地購入の先行取得は、人口減と財政難のなか推進すべきではない。ウィルチエアスポーツ施設の指定管理者は、全国で問題になっているパークPFIのもとでの指定であり反対。図書館の指定管理者は、日本図書館協会も「指定管理者制度はなじまない」としていること。また司書の配置と

長期的視点が必要な図書館に指定管理者制度導入は問題があり反対。市立医療センターの中期目標に「地域医療構想」を踏まえるとあるが、府下で急性期病床を八千五百八十八も減らすことになる。自治体病院開設者協議会も「効率性・経済合理性のみでは地域医療は守れず、感染症対策からの医療体制の確保」を国に要望している。コロナ禍に病院のベッドを減らすことになり反対。他議案には賛成。

公立保育所四園募集停止延期、子育て環境充実求める請願は、採択すべき。既に保育所募集も始まり継続審査にし態度を明らかにしないのは市民の声を無視するもの。継続審査に反対。

照 隔 の 会

議案第八十九号の補正予算中、新型コロナウイルス感染症対応薬局薬剤師慰労金交付事業に、賛成はするが幾つかの疑問を感じるため意見を付する。

この事業は、緊急事態宣言中に市内保険薬局で十日以上勤務した薬剤師に五万円の慰労金を給付するもので、感染の不安の中、勤務された方々には感謝するものである。しかし第一に、なぜ薬剤師だけなのか。保育や教育の現場等、不安の中、休めない業種の方も多し。施策の優先順位が違うのではないか。第二に、なぜ半年以上経過した今なのか。必要ならもっと早くすべきでないか。第三に、なぜ市単費なのか。院外の薬剤師は含まれておらず、パランス論だけでは支給根拠が弱いのではないか。これは特定団体に配慮した事業に見える、公平感、平等感に欠けると感じる。順風満帆に市政が運営できているときこそ、このような施策は厳に慎むべきではないか。コロナ禍で影響を受け苦しむ人々に寄り添う施策こそ今求められるのではないか。

令和元年度決算

一般会計等全議案を認定及び可決

令和二年度第三回定例会において、委員十名で構成する決算審査特別委員会を設置し、閉会中の継続審査に付されていた令和元年度決算認定議案等十五件について、委員会審査が行われ、委員から審査結果が報告された。今定例会初日に木村副委員長から審査結果が報告された。なお、討論の概要は次のとおりです。

討 論

日本共産党

一般会計と国保会計については以下の理由から不認定。長瀬青少年センターでの清掃委託料二千百二十万五千五百八十四円と異常に高額な支出がされていることをはじめ、二つの地域に限定された事業などが行われ、公平性を欠く事業や支出がされている。ケースワーカーや消防職員などは国の基準や条例から見ても不足した状態が解消されず、災害時や今回のようなコロナ禍ではその対応に追われ、通常業務ができない事態にもなっている。

小中学校運営経費の中で図書購入費が二〇一七年度と比較して五十六％と激減している。一般会計に占める教育費の割合が七・二％と非常に低いことが問題。建築部の支払い失念は組織としての体制上の問題。保育所の入所について未入所児童は三百九十二名と高いまま。公立四園での〇歳児募集停止は中止すべき。国保会計では大阪府の統一保険料に移行する中で、本市の主体性が奪われていることが、赤字の要因になっている。

議案の各派態度表 (11月30日 議決分)

Table with columns for party names (自由民主党, 公明党, 日本共産党, 大阪維新の会, 自民党大志会, 大阪政心会, 新社会党, 東大阪翔の会, 照隔の会, 東大阪の会, N国党) and rows for various budget items. Symbols indicate approval (O) or opposition (X).